

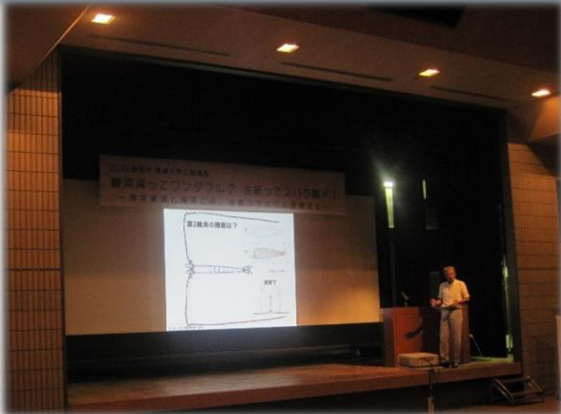
静岡市環境大学2019 講座報告 6日目

演題：サクラエビの生態と資源

東海大学海洋学部 教授 福井 篤様

場所：葵生涯学習センター1Fホール（公開講座）

時間：9：15～10：30



講義のポイント

要点1：サクラエビの形態・学名

- サクラエビの大漁の記録は、明治27(1894)年12月に静岡県の由比の漁師が捕ったのが始まりとされている。
- サクラエビの体長は約4cmで体重は約0.4g、発光器は160個以上あり、第2触角は体長の約3.3倍ある。
- 第2触角はその約3分の1の部分で強く曲がり、それより先の各節には腹面に1対の軟毛があって遊泳に役立つ。
- サクラエビの学名は、標準和名「サクラエビ」学名「*Lucensosergia lucens*(Hansen1922)」である。

要点2：地理的分布と産卵

- サクラエビの地理的分布は、駿河湾・相模湾・東京湾口部・長崎県福江島沖である。
- 主な産卵場は由比・焼津であり産期は7月～9月、水温は18度～25度（水深20～50m層）メスは1回の産卵で約800～2500個の卵を産む。1産卵期あたりの総産卵数は約18000個である。

要点3：生息層と日周鉛直移動

- サクラエビの卵や幼生は水深20～50mに生息している。
- 成体になると、昼間は水深200m～350m水温は9～13℃に生息しているが、夜間になると水深20～100m水温は14～22℃に生息している。昼間と夜間で約300m移動する⇒日周鉛直移動という。
- サクラエビの脱皮には水温が大きく関係しており、水温の高い浅層で脱皮していると考えられる。

要点4：サクラエビ漁での対策

- サクラエビの不漁に対して、2018年秋漁では35mm以下の小型エビを漁獲しないことや、2019年春漁では産卵場（由比沖）では操業しない等の対策をしている。

受講生の感想

- ◆ 普段は美味しい食べ物という認識しかないサクラエビでしたが静岡市の貴重な産業資源という認識が生まれました。サクラエビのことについて知っているようで知らなかったことが分かりとても学びになりました。他の環境課題とむすびつけて自分も説明できるようにしたいです